

(別 紙)

令和3年度 動物愛護管理功労者大臣表彰の受賞者

| | |
|------|---|
| 受賞者 | <p>イマダ トモ 猪股 智夫 (67歳) 東京都在住</p> <p>麻布大学 名誉教授</p> |
| 功績概要 | <p>○麻布大学獣医学部において長年、実験動物を始めとする動物の福祉、適正な動物実験、生命倫理等について指導。</p> <p>○学内の実験動物学講義を担当し、また全学の動物実験委員会委員長として動物実験に関わる実験計画書の審査、動物実験に関わる教員、学生への教育訓練、国内外の実験動物関連法規等、適正な動物実験に関する情報提供に尽力。</p> <p>○社会貢献として、神奈川県動物愛護協会が取り組む「動物福祉検定」の内、実験動物の分野での教材作成や試験問題作成を現在も担当。</p> |
| 受賞者 | <p>キザワ コウイチ 北澤 浩一 (65歳) 神奈川県在住</p> <p>元 公益社団法人 神奈川県獣医師会 副会長</p> |
| 功績概要 | <p>○昭和56年4月に神奈川県獣医師会会員となって以降、自ら営む小動物診療業務とあわせて動物愛護管理全般に長年取り組んでいる。</p> <p>○平成25年から令和元年に同会副会長を務め、同会が開催する「動物フェスティバル神奈川」の大会副会長として開催の陣頭指揮にあたった。</p> <p>○平成29年に神奈川県と同会との間で締結した「災害時における動物救護活動に関する協定書」に関し、担当副会長として県との調整にあたり締結に尽力。</p> <p>○神奈川県動物愛護センターが令和元年度にリニューアルオープンした際、県と同会との間で「神奈川県が保護した犬、猫等に対する獣医療の連携に関する協定書」を締結。同氏は、締結に向けて会の中心となって尽力し、県が保護した犬、猫等の譲渡を推進するため診断や治療等の協力を行う体制づくりを行うなどの調整を図り、現在において定着した、県との獣医療連携のシステム構築に貢献。</p> |

| | |
|------|--|
| 受賞者 | <p>クハラ ヤスツ 桑原 保光 (66歳) 群馬県在住</p> <p>公益社団法人 群馬県獣医師会 会長</p> |
| 功績概要 | <ul style="list-style-type: none"> ○昭和 56 年に動物病院を開設後、小動物診療に従事し、地域における動物愛護の高揚に努めている。 ○学校動物事業の普及推進の先頭に立ち、子どもと動物のふれあいによる情操教育の効果を会としての事業に発展させる。平成 10 年には県委託事業として小学校での動物ふれあい教室を全国に先駆け実施。 ○平成 10 年から現在に至るまで、日本獣医師会学校飼育動物検討委員及び委員長を務め、学校飼育動物活動の推進に貢献。 ○夜間動物病院の開設について協力獣医師の募集をはじめとする準備に尽力し、平成 24 年に県内唯一の夜間動物病院の開設に至った。 |

| | |
|------|--|
| 受賞者 | <p>ヤバ マサト 矢部 真人 (73歳) 栃木県在住</p> <p>元 公益社団法人 栃木県獣医師会 副会長</p> |
| 功績概要 | <ul style="list-style-type: none"> ○平成 2 年に栃木県動物愛護フェスティバルを初めて開催した際に、支部役員として県と協力して成功に力を注ぎ、以降毎年の開催への道筋をつけ、県民の動物愛護に関する啓蒙活動に発展させた。 ○同会常務理事時代に学校飼育動物対策委員会の立ち上げに尽力し、県教育委員会と連携した学校訪問、飼育管理指導、ふれあい教室の実践を通して、同会の学校飼育動物支援体制を構築。 ○レインボークラブ(ボランティア団体)を立ち上げて代表を務め、アニマルセラピーの取り組み、一般市民向け公開講座の開催を通して動物愛護の普及啓発に努めている。 ○「獣医師会を発展させることは重要であるが、子供たちに、動物とかわることで思いやる心、教育現場における動物愛護の心を持ってもらいたい。」と考え、今でも同会の各種業務、事業に取り組んでいる。 |

| | |
|---------------------|--|
| <p>受賞者 (団体)</p> | <p style="text-align: center;">キョウトフジュウイシカイ 公益社団法人 京都府獣医師会 (京都府)</p> |
| <p>功績概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○昭和 24 年に、獣医学術の向上・普及、獣医業務の発展を図るため設立。 ○「動物感謝デー in KYOTO」を開催し、動物の適正飼養や終生飼養の普及啓発を推進。 ○犬及び猫のマイクロチップ装着について、飼養者への普及啓発、京都動物愛護センターへのマイクロチップ寄附等を通して、所有者明示の徹底や逸走、保護後の速やかな飼い主への返還に貢献。 ○京都府動物愛護推進協議会の活動、講習会等への講師派遣、協定に基づく災害発生時ボランティア活動等を通して、京都府の動物愛護管理行政推進に協力。 ○その他、動物介在教育推進協力活動、狂犬病予防事業の推進、「人と動物の共通感染症」に関する調査及び情報提供等を通じて、地域の課題の解決に貢献。 |

| | |
|---------------------|--|
| <p>受賞者 (団体)</p> | <p style="text-align: center;">キョウトシジュウイシカイ 公益社団法人 京都市獣医師会 (京都府)</p> |
| <p>功績概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○昭和 39 年 8 月に、京都府獣医師会から分離・独立して発足。 ○京都動物愛護センターにおいて、収容動物に対する治療等の技術指導や業務への協力、京都夜間動物救急センター・被災時救護施設の運営、広域保護動物普及支援活動を実施。 ○京都市動物愛護推進会議の運営への協力、協定に基づく犬猫の避妊・去勢手術助成の実施、業務契約に基づくマイクロチップ装着の推進等を通して、自治体の動物愛護管理業務と連携、協力している。 ○「京都動物フォーラム」の開催のほか、動物愛護週間に関連した活動、京都市や京都動物愛護センター主催イベント・講習への協力を通して、動物愛護に関する普及啓発を実施。 ○その他、補助犬への活動支援、学校飼育動物の飼育指導及び診療、「人と動物の共通感染症」に関する調査及び情報提供、授業や研修会への講師派遣等を実施。 |

| | |
|---------------------|---|
| <p>受賞者 (団体)</p> | <p style="text-align: center;">ドウブツリンシヨウイガクケンキュウジヨ 公益財団法人 動物臨床医学研究所 (鳥取県)</p> |
| <p>功績概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○昭和 56 年 10 月に小動物臨床研究所として開設し、平成 3 年 4 月に財団法人へ改組。 ○動物愛護活動や動物愛護思想の向上および動物との共生を推進するために、平成 23 年に同所内へ「人と動物の会」発足。また、東日本大震災を契機として直接的な動物愛護活動を行うために、平成 25 年に「人と動物の未来センター・アミティエ」を開設。 ○平成 26 年からは鳥取県と連携し（平成 30 年からは鳥取市とも連携）、鳥取県動物愛護センターとして、保健所に收容された犬猫の受入れ及び譲渡に取り組むとともに、アミティエフェスタや市民向けセミナーの開催等の動物愛護普及啓発活動を積極的に行っており、動物愛護の推進に大きく貢献。 ○その他、盲導犬の育成事業や、研究活動、出版事業等を通して、『人と動物の接点の探求』および『動物愛護思想の啓発普及』を目標とした活動を実施。 |